

由来・神事は伝説時代に遡る「尾上神社」

さかのぼ



年号が替わり、新しい時代に入る年の始まりです。

初詣に出かけた人も多いと思いますが、古くから開けた加古川には、多くの神社が存在します。その中で尾上神社の由来や神事は、伝説の時代に遡ります。

いわゆる「三韓征伐」の凱旋の際、神功皇后は住吉大明神の海上守護で尾上に上陸したが雨天のため進軍できず、「鏡の池」で斎戒沐浴して住吉大明神を鎮祭し、晴天を祈願したことが神社の起源とのことで、以後、軍神・海上の守護神として、多くの船人等に参詣されてきました。



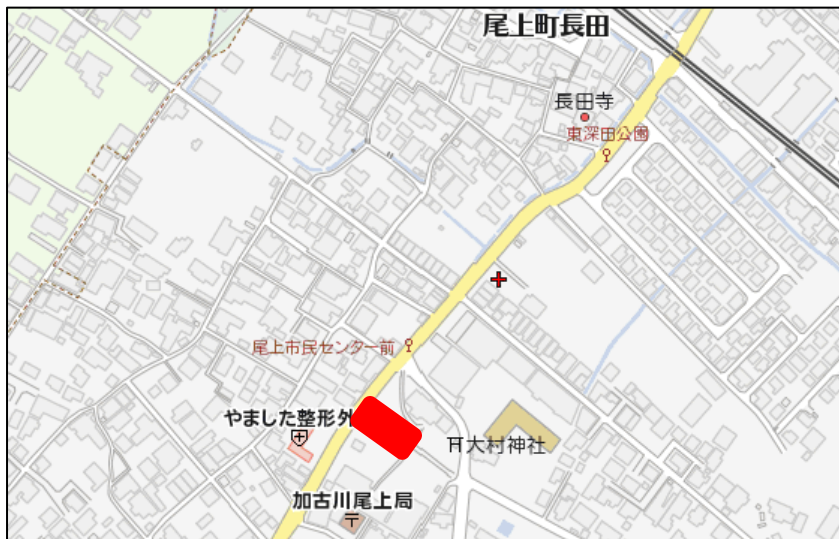
神社には、神功皇后に由来するとの伝承を持つ重要文化財「尾上の鐘」があり、また境内の「尾上の(相生の)松」は、結婚式等で謡われる謡曲「高砂」に登場することで有名です。



豊臣秀吉の三木城攻め(対毛利戦)の際、毛利軍がこの地に上陸して戦場となり、神社は荒廃しましたが、慶長9(1604)年、姫路藩主：池田輝政が初代の「相生の松」の根の上に社殿を移築・改修、さらに寛永2(1625)年、姫路城主：本多忠政が鐘楼を建立しました。

江戸時代には『播州名所巡覧図会』等で紹介され、画家：司馬江漢や伊能忠敬、幕末の清川八郎等多くの人々が訪れる観光地となっていたようです

1月13日には「ワーワーの頭とう」の神事が行われますが、これは神功皇后の夫：仲哀天皇の祖父とされる景行天皇の時代に起源する神事だそうです。



平成23(2011)年に、8代目・9代目の「尾上の松」を植樹

ぶらり加古川第70号
平成31年1月